

〈学会消息〉

日本経済政策学会第74回全国大会（亜細亜大学大会）

植村利男

I. 大会開催の趣旨について

2017年5月27日（土）・28日（日）の両日に渡り、亜細亜大学において日本経済政策学会第74回全国大会が開催された。本学で全国大会が最初に開催されたのは1975年であったので、42年ぶりであった。

大会開催の趣旨は、大会のテーマの「経済環境の変化と経済政策—アジア経済連携と日本の関与—」のもとに、現下の日本経済の直面する課題と東アジア諸国との連携を視野に、諸課題と解決の方向を示唆することにあった。

今日、日本の置かれた国内外の環境で、最も注目すべき国際的要因として、アメリカの大統領選挙に伴う政策転換、世界的不況に伴う中国経済の停滞・崩壊の可能性、そして、原油価格の低迷が継続する場合の資源国の経済破たんの可能性等、種々あるが、これらは、ある意味で外生的な国際的環境要因と見なしうるものである。それ故、各国のリスク管理問題として対応せねばならない領域といえることができる。そこで、日本の関わるべき経済政策の重点領域として、アジア経済に焦点を向けた。アジア経済は、現在、大きな転換点に立つ。即ち、アジア経済の発展の推進力は、アジア NIES から、中国経済、そして ASEAN 共同体へと移っている。従って、日本の関与しうる検討課題として、アジア地域における ASEAN 経済共同体の各国の成長とその経済構造の転換の困難の克服に対して、日本と日本経済の果たしうる役割にこそ、今日の政策課題としての重要性があると考える。

これまで、アジア諸国はキャッチアップ型の経済発展を実現してきた。特に1980年代後半以降の日本からの輸出促進型の直接投資の急拡大と相俟って、相互に密接に連携したアジア地域経済共同体へと発展・深化してきている。2017年の今日では、世界の成長センター、世界の生産基地、世界の消費市場へと変貌してきている。これらの経済発展とともに、都市化の進展、社会インフラの不足や環境問題の拡大、労働力の質向上のための教育の充実の必要と少子高齢化の進展など、多岐にわたる新たな課題にも直面することとなった。

そこで、ASEAN 諸国の経済的発展とその現状について、歴史的背景を考慮しつつ、その経済発展プロセスの検討、そして、今日の ASEAN 各国の課題のみならず、ASEAN 全体として直面する金融面のアジアインフラ投資銀行（AIIB）、貿易面の環太平洋経済連携協定（TPP）等についてもその課題を明らかにする必要がある。また、2015年12月に結成された ASEAN 経済共同体の現状

と課題等を検討する必要がある。これらのアジア地域の経済と社会の直面する新たな構造変化と課題の山積の中にあつて、日本経済はどのように連結され、それらの課題に、日本はどのように関与・貢献することができるであろうか。この日本の取り組むべき経済政策の課題を、多角的な視点から明らかにし、将来の方向を示唆することが、本大会の開催の趣旨である。

初日では、「経済環境の変化と経済政策—アジア経済連携と日本の関与—」との共通論題のテーマに関連して、アジア研究を中心的に研究されている先生方からの貴重な講演をいただくプログラムとなっている。アジア経済、アセアン経済共同体、日系企業、政府の現地貢献、環境問題等の、アジア経済と日本との将来を見通す貴重な示唆が得られるのではないかと確信している。また、パネルディスカッションでは、中国を含めたより詳細、具体的な、諸課題についての白熱討論を期待している。

二日目には、複数の企画セッションも予定されている。一つは学術英語学会の専門研究の先生方にご講演をいただき国際学会での大学教員及び大学院生の海外発表に係る多くの貴重なアドバイスをいただけるセッションが企画されている。また、もう一つの企画セッションでは、日本経済の格差と再分配に関してマイクロデータに基づく研究報告が企画されている。

自由論題の報告テーマでは、あらゆる重要課題に取り組む研究成果が報告される予定である。

II. 大会プログラムの詳細

1. 全国大会日程及びプログラム

(1) 日程

2017年5月27日(土)、28日(日)

(2) プログラム(詳細は後述)

- ・共通テーマは「経済環境の変化と経済政策—アジア経済連携と日本の関与—」
- ・5月27日は共通テーマによる特別セッション、共通論題セッション、共通論題の討論、そしてパネルディスカッションを行った。

・5月28日は自由論題セッション及び企画セッション

自由論題セッションは10のセッションに分けて26の報告及び討論を実施した。

加えて、企画セッション1として、「チュートリアルセッション1、2」、企画セッション2として「格差と再分配」が開催された。「チュートリアルセッション1、2」は、英語論文の書き方、及び国際学会での発表の仕方をテーマにした実践的な内容により開催された。

2. 参加者及び費用

- ・参加者総数は299名(重複なし)
- ・5月27日155名、28日143名(うち28日のみ出席は80名)
- 懇親会出席者(会費支払者)55名

- ・参加証明書発行 14 名
- ・費用は節約を旨とし、インターネットとホームページでの情報提供を中心とし、報告要旨集冊子と CD の両発行の取りやめ、プログラムの小冊子を当日配布し、プログラム印刷費の節約等により大幅な費用削減を実現することができた。

3. **大会第1日プログラム**（5月27日（土）、午前10時開始、5号館1階512番教室）

受付 5号館1階 9時～

- (1) 開会挨拶 内山 敏典 全国大会プログラム研究・開発委員会委員長 10時～10時10分
- (2) 主催校挨拶 権丈 英子 亜細亜大学副学長 10時10分～10時20分
- (3) 特別セッション 「アジア経済連携と日本の関与」
座長：小川 春男（亜細亜大学） 10時20分～12時
「新興アジア経済と中国の台頭をどう捉えるか」 末廣 昭 学習院大学教授
「アジアの経済統合：現状と展望」 石川 幸一 亜細亜大学教授

理事会 5号館2階526教室 12時～13時

総会 5号館1階512教室 13時5分～13時55分

- (4) 共通論題セッション 「ASEAN 経済と日本の連携」
座長：荒山 裕行（京都産業大学） 14時～15時45分
「ASEAN 経済と企業の役割」 洞口 治夫 法政大学教授
「ベトナムの経済発展と日越大学創設・投資交流の推進」 藤岡 文七 一般社団法人日本リサーチ総合研究所理事長・一般社団法人日本ベトナム経済フォーラム専務理事
「ASEAN 経済の持続可能な開発と環境政策」 仲上 健一 立命館大学特任教授
- (5) 共通論題・討論 15時45分～16時30分
討論者 第1報告、布田 功治（亜細亜大学）、
第2報告、土肥原 洋（亜細亜大学）、
第3報告、二宮 浩輔（山梨県立大学）
- (6) パネルディスカッション 16時30分～17時30分
コーディネータ 荒山 裕行（京都産業大学）
ディスカッサンツは、前記（4）の報告者、及び前記（5）の討論者
- (7) 懇親会 アジアプラザ4階ホール 18時～20時

4. **大会第2日プログラム**（5月28日（日）、9時5分開始、17時終了、5号館各教室）

受付 5号館1階 8時30分～

(午前の部)

I-1 「リスクと保険」 座長 谷口 洋志 (中央大学)

5号館3階531教室 9時5分～10時25分

(1) 「大規模災害が中古車価格に与える影響に関する研究」

報告者 澁谷 遊野 (東京大学) 討論者 馬場 正弘 (敬愛大学)

(2) 「航空保険にノーロス・ノープロフィットの原則は必要か」

報告者 桑名 謙三 (関西大学) 討論者 村松 幹二 (駒澤大学)

II-1 「農業」 座長 土井 康裕 (名古屋大学)

5号館3階532教室 9時5分～10時25分

(1) 「兼業は離農を促進してきたのか、離農を抑えてきたのか—間接効用関数を用いた離農、離村条件の確定」

報告者 北島 浩三 (名古屋大学) 討論者 柏木 士朗 (麻生公務員専門学校)

(2) 「政策形成の財政的特質—農業政策からみて—」

報告者 小嶋 大造 (京都大学) 討論者 滝澤 弘和 (中央大学)

III-1 「産業と競争政策」 座長 明石 芳彦 (大阪商業大学)

5号館3階533教室 9時45分～11時50分

(1) 「ポーランド自動車産業におけるR&Dの拡大と促進政策」

報告者 岡崎 拓 (神戸大学) 討論者 宮田 由紀夫 (関西大学)

(2) 「社会的に望ましい垂直合併が妨げられる要因に関する分析」

報告者 田村 和也 (神戸大学) 討論者 田中 悟 (神戸外国語大学)

(3) 「アップル、グーグルによる規制なき抱き合わせへの対応」

報告者 長谷川 雄哉 (関東学園大学) 討論者 堀江 明子 (東洋大学)

IV-1 「社会保障と雇用」 座長 内山 敏典 (九州産業大学)

5号館3階534教室 9時45分～11時50分

(1) 「小児救急電話相談の実施と小児救急搬送者数の関連性」

報告者 山岡 淳 (医療経済研究機構) 討論者 中山 徳良 (名古屋市立大学)

(2) 「A Quantitative Analysis for Projections of Japan's Public Assistance」

報告者 米田 泰隆 (一橋大学) 討論者 和泉 徹彦 (嘉悦大学)

(3) Child Allowance, Public Education and Human Capital Accumulation

報告者 村田 慶 (静岡大学) 討論者 伊ヶ崎 大理 (日本女子大学)

V—1 企画セッション1「チュートリアル1 英語論文の書き方」

5号館1階511教室 10時30分～12時

座長 小澤 太郎（慶應義塾大学）

講演者 崎村 耕二（日本医科大学、一般社団法人学術英語学会理事）

講演者 Tom Gally（東京大学、一般社団法人学術英語学会会長）

講演者兼討論者 前田 章（東京大学）

（午後の部）

I—2 「マルチ部門」 座長 酒井 邦雄（愛知学院大学）

5号館3階531教室 13時30分～15時30分

(1) 「Analyzing the Link Between Socio-economic Performance and Urban System: The Case of Philippines」

報告者 Dumayas, Arianne（中央大学） 討論者 植村 利男（亜細亜大学）

(2) 「経済施策の枠組みに関する新視点—2部門モデルから3部門モデルへ—」

報告者 岡部 光明（慶應義塾大学） 討論者 荒山 裕行（京都産業大学）

(3) 「ブラック企業とホワイトカラーエグゼンプションに関する理論的研究」

報告者 眞田 英明（九州大学） 討論者 村田 慶（静岡大学）

I—3 「エネルギーと環境」 座長 木下 信（龍谷大学）

5号館3階531教室 15時40分～17時

(1) 「環境技術の選択と企業評価の不確実性」

報告者 大野 正久（熊本大学） 討論者 朴 勝俊（関西学院大学）

(2) 「バリューチェーンの分断と企業統治」

報告者 秋山健太郎（星城大学） 討論者 野村 宗訓（関西学院大学）

II—2 「金融 1」 座長 佐竹 光彦（同志社大学）

5号館3階532教室 13時30分～15時30分

(1) 「株式市場に特化したセンチメント・インデックスの構築と株価予測可能性」

報告者 石島 博（中央大学）・数見 拓朗（株式会社サイバーエージェント）・前田 章（東京大学） 討論者 胥 鵬（法政大学）

(2) 「マイナス経済の影響—新古典派成長モデルから」

報告者 鐘田 亨（名古屋商科大学） 討論者 千田 亮吉（明治大学）

(3) 「日銀の物価上昇目標とマイナス金利政策の検証」

報告者 衣川 恵（鹿児島国際大学） 討論者 林 直嗣（法政大学）

II-3 「金融 2」 座長 林 直嗣（法政大学）

5号館3階532教室 15時40分～17時

(1) 「消費遺産動機における資産バブルと課税政策」

報告者 仲間 瑞樹（山口大学） 討論者 飯島 大邦（中央大学）

(2) 「金融不安定性モデルにおける課税の効果」

報告者 松田 麟太郎（明治大学） 討論者 浅田 統一郎（中央大学）

III-2 「財政と地域経済」 座長 永富 隆司（国土館大学）

5号館3階533教室 13時30分～15時30分

(1) 「地域経済（47都道府県）における資本ストックの動きと生産関数」

報告者 芦川 敏洋（静岡県庁） 討論者 張 星源（岡山大学）

(2) 「財政再建政策の産出効果：交差効果分析からの接近」

報告者 中西 一（佐賀大学） 討論者 黒岩 直（国土館大学）

(3) 「道路投資の増減と入札率・落札率の変動の関係性に関する一考察」

報告者 荒井 弘毅（秀明大学） 討論者 大谷 健太郎（名桜大学）

IV-2 「教育」 座長 権丈 英子（亜細亜大学）

5号館3階534教室 13時30分～15時30分

(1) 「大学による自治体への財政貢献：米国の『善意に基づく税の代替支払い』からの一考察」

報告者 中村 晃司（関西学院大学） 討論者 松原 聡（東洋大学）

(2) 「地域課題の解決に大学が教育研究活動として関与する意義—稚内ノシャップ寒流水族館多言語化PJTを事例として—」

報告者 黒木 宏一（九州産業大学） 討論者 角本 伸晃（実践女子大学）

(3) 「武雄市における『ICTを活用した教育』の現状と課題」

報告者 松原 聡（東洋大学） 討論者 兎島 完二（名古屋学院大学）

V-2 企画セッション1 「チュートリアル2 国際学会での発表の仕方」

5号館1階511教室 13時30分～15時

座長 柳川 隆（神戸大学、日本経済政策学会会長）

講演者 Tom Gally（東京大学、一般社団法人学術英語学会会長）

講演者 崎村 耕二（日本医科大学、一般社団法人学術英語学会理事）

講演者兼討論者 和田 龍磨（慶應義塾大学）

VI—1 企画セッション2 「格差と再分配—マイクロデータを用いて」

5号館1階512教室 13時30分～16時20分

座長 小嶋 大造（京都大学）

(1) 「格差と再分配をめぐる幾つかの論点—国際サーベイと日本へのインプリケーション—」

報告者 熊倉 誠和（財務省財務総合政策研究所） 討論者 玉井 寿樹（名古屋大学）

(2) 「生涯ベースでみた家計の受益・負担—『全国消費実態調査』個票を用いた実証分析—」

報告者 小玉 高大（財務省財務総合政策研究所） 討論者 大野 太郎（信州大学）

(3) 「家計の消費支出と消費税負担—『全国消費実態調査』個票を用いた実証分析—」

報告者 明村 聖加（財務省財務総合政策研究所） 討論者 大野 太郎（信州大学）

(4) 「非正規雇用の現状と正規雇用への転換要因—『ワーキングパーソン調査』個票を用いた実証分析—」

報告者 高橋 勇介（京都大学） 討論者 四方 理人（関西学院大学）

Ⅲ. 謝辞

これらの二日間にわたる講演、報告、討論、においては、白熱した議論が交わされ、参加者も十分に納得され、満足度も高かったのではないかと推察される感想も種々寄せられている。その意味で、大成功であったことを確信したい。

最初に、本大会を亜細亜大学で開催することを快くご了解いただいた亜細亜大学の越村敏昭理事長と栗田充治学長に心から感謝申し上げる次第である。

次に、大会特別講演者の末廣昭先生、大会特別報告者の藤岡文七先生、大会特別報告者の洞口治夫先生、大会特別報告者の中上健一先生、大会特別討論者の二宮浩輔先生、そして、大会特別報告座長の荒山裕行先生の皆様には、亜細亜大学大会の特別セッションにご参加いただいたことに心より感謝申し上げます。次第である。

さらに、本学関係者の主催校挨拶と自由論題セッション座長の権丈英子副学長、特別講演者の石川幸一先生、特別講演座長の小川春男先生、共通論題特別報告討論者の土肥原洋先生、同布田功治先生、ホームページを完成させたセッション責任者として申寅容先生、広くサポートいただいた須永隆経済学部長、江川美紀夫国際関係学部長、さらに、当日参加された本学の先生方とサポートをいただいた多数の職員の皆様にも心より感謝申し上げます。次第である。

また、運営面で、野球部の学生諸君には大学への案内をはじめ各セッションを担当してサポートをいただいたこと、経済学研究科の大学院生の皆さんに受付等のマネージメントをご担当いただいたこと、皆さんの所作振る舞いが大変に好評であったことが、大会参加者から伺った多数の賛辞の声より確信できました。ここに、心より感謝申し上げます。

最後に、筆者が2017年2月に体調不良で大会実行委員長を辞した後、突然であったにもかかわらず、大会実行委員長を快く引き継いでいただいた本学経済学部の土肥原洋先生には幾重にも感謝

申し上げる次第である。とともに、大会事務局長として辣腕を振るっていただいたおかげで、大きな費用の節約を実現することができた白井邦彦先生にも同じく深く感謝申し上げる次第である。そして、本学のますますの発展と、また何十年後かに本学での全国大会の開催が実現することを祈念しつつ、これをもって謝辞とする次第である。